

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号
特許第6928095号
(P6928095)

(45) 発行日 令和3年9月1日(2021.9.1)

(24) 登録日 令和3年8月10日(2021.8.10)

(51) Int.Cl.

F I

B 6 2 B 9/12 (2006.01)

B 6 2 B 9/26 (2006.01)

B 6 2 B 9/28 (2006.01)

B 6 2 B 9/12 Z

B 6 2 B 9/26

B 6 2 B 9/28

請求項の数 15 (全 22 頁)

(21) 出願番号	特願2019-535442 (P2019-535442)	(73) 特許権者	519088111
(86) (22) 出願日	平成29年6月19日 (2017.6.19)		ベビーゼン
(65) 公表番号	特表2019-526499 (P2019-526499A)		フランス国, 1 3 1 0 0 エクサン プロ
(43) 公表日	令和1年9月19日 (2019.9.19)		バンス, ルート デ パンシナ 2 3 5 5
(86) 国際出願番号	PCT/EP2017/064956	(74) 代理人	100099759
(87) 国際公開番号	W02018/050303		弁理士 青木 篤
(87) 国際公開日	平成30年3月22日 (2018.3.22)	(74) 代理人	100123582
審査請求日	令和2年5月29日 (2020.5.29)		弁理士 三橋 真二
(31) 優先権主張番号	1658570	(74) 代理人	100147555
(32) 優先日	平成28年9月14日 (2016.9.14)		弁理士 伊藤 公一
(33) 優先権主張国・地域又は機関	フランス (FR)	(74) 代理人	100160705
			弁理士 伊藤 健太郎
		(74) 代理人	100214868
			弁理士 吉井 一馬

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ベビーカーアクセサリおよび、ベビーカーとこのようなアクセサリを含む輸送アセンブリ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

- 地面上を転動するための少なくとも一つの支承輪 (2 2 ; 1 2 2) が具備されたシャーシ (2 1 ; 1 2 1 ; 2 2 1) と、

- ベビーカー (1 0) のフレーム (1 1) に可逆的に連結することを目的としシャーシによって担持されている装置 (2 3) と、を含むベビーカーアクセサリにおいて、

前記装置 (2 3) が、互いに平行であって、互いに反対側にそれぞれの面を有する、前記ベビーカーの前記フレーム (1 1) の左後部部分 (1 1 . 1 G) と右後部部分 (1 1 . 1 D) にそれぞれ属する、前記ベビーカー (1 0) の左垂直材 (1 6 G) と右垂直材 (1 6 D) の間に取付けるのに好適であり、前記面内にはそれぞれ第 1 の雌収納部 (1 8 G) および第 2 の雌収納部 (1 8 D) が削孔されており、

前記装置 (2 3) は、

- 前記装置が前記ベビーカーの左垂直材と右垂直材の間に取付けられたときに第 1 の雄要素が前記第 1 の雌収納部 (1 8 G) 内に相補的に収容されている連結位置と、前記第 1 の雄要素が前記第 1 の雌収納部の外部にある連結解除位置との間で、シャーシ (2 1) との関係において移動可能である第 1 の雄要素 (3 2 G) と、

- 前記装置が前記ベビーカーの左垂直材と右垂直材の間に取付けられたときに第 2 の雄要素が前記第 2 の雌収納部 (1 8 D) 内に相補的に収容されている連結位置と、前記第 2 の雄要素が前記第 2 の雌収納部の外部にある連結解除位置との間で、シャーシとの関係において移動可能である第 2 の雄要素 (3 2 D) と、

10

20

- 前記第 1 の雄要素および前記第 2 の雄要素を起動させるための機構であって、
- ・ ユーザの片手での応力付加によって、前記第 1 の雄要素および前記第 2 の雄要素をそれらの連結位置から連結解除位置まで連動して駆動するため、および
- ・ 応力がない場合には、前記第 1 の雄要素および前記第 2 の雄要素をそれらの連結解除位置から連結位置まで自動的に戻すために好適である機構 (40) と、
を含むことを特徴とする、ベビーカーアクセサリ。

【請求項 2】

前記機構 (40) が、前記第 1 の雄要素 (32G) および前記第 2 の雄要素 (32D) の各々について、

- 前記対応する雄要素を手動式でその連結位置から連結解除位置まで駆動し、把持用隆起部 (36G、36D) が具備されている駆動部材 (34G、34D) であって、それぞれ前記第 1 の雄要素および前記第 2 の雄要素と結び付けられている前記把持用隆起部が、前記第 1 の雄要素および前記第 2 の雄要素を連動して駆動するために前記ユーザの同じ手の 2 本の指によってそれぞれ応力付加されるように構成されている、駆動部材と、

- 前記駆動部材 (34G、34D) とシャーシ (21; 121; 221) の間に機械的に挿入され、前記第 1 の雄要素 (32G) および前記第 2 の雄要素 (32D) をその連結解除位置から連結位置まで弾性的に戻す、戻しバネ (38) と、

を含むこと、を特徴とする請求項 1 に記載のベビーカーアクセサリ。

【請求項 3】

前記第 1 の雄要素 (32G) および前記第 2 の雄要素 (32D) が、それらの連結位置と連結解除位置の間で同じ軸 (Y-Y) に沿って並進運動できること、および前記第 1 の雄要素および前記第 2 の雄要素が前記軸 (Y-Y) に沿って互いにより接近することにより、それらの連結位置から連結解除位置まで並進運動すること、を特徴とする請求項 1 または 2 に記載のベビーカーアクセサリ。

【請求項 4】

前記第 1 の雄要素 (32G) および前記第 2 の雄要素 (32D) が、それらの連結位置と連結解除位置の間で同じ軸 (Y-Y) に沿って並進運動でき、および前記第 1 の雄要素および前記第 2 の雄要素が前記軸 (Y-Y) に沿って互いにより接近することにより、それらの連結位置から連結解除位置まで並進運動し、それぞれ前記第 1 の雄要素 (32G) および前記第 2 の雄要素 (32D) と結び付けられた前記駆動部材 (34G、34D) が、前記軸 (Y-Y) に沿って並進運動でき、前記第 1 の雄要素および前記第 2 の雄要素をそれらの連結位置から連結解除位置まで連動して駆動するために手動式に応力を加えられた時点で、把持用隆起部 (36G、36D) を前記軸 (Y-Y) に沿って互いに接近させることを特徴とする、請求項 2 に記載のベビーカーアクセサリ。

【請求項 5】

前記装置 (23) がさらに、前記機構 (40) および前記第 1 の雄要素 (32G) および前記第 2 の雄要素 (32D) の移動を支持し案内する支持体 (30) を含み、この支持体が永久的または取外し可能な形で前記シャーシ (21; 121; 221) に固定的に連結されていること、を特徴とする、請求項 1 から 4 のいずれか 1 項に記載のベビーカーアクセサリ。

【請求項 6】

前記装置 (23) がさらに、前記機構 (40) および前記第 1 の雄要素 (32G) および前記第 2 の雄要素 (32D) の移動を支持し案内する支持体 (30) を含み、この支持体が永久的または取外し可能な形で前記シャーシ (21; 121; 221) に固定的に連結されており、

前記支持体 (30) が、

- 第 1 の端部部分 (42、1G) であって、
- ・ その外部では前記第 1 の雄要素 (32G) が前記連結位置で軸方向に展開し、
- ・ その内部では前記第 1 の雄要素 (32G) が前記連結解除位置で軸方向に引込まれ、

10

20

30

40

50

・ 前記第 1 の雄要素と結び付けられた前記駆動部材 (3 4 G) を内部に収容し、前記駆動部材と形状相補性により協働して、この駆動部材を前記軸 (Y - Y) に沿って並進運動で案内し、

・ 前記第 1 の雄要素と結び付けられた前記パネ (3 8) を収納して、前記パネのための支承を形成する、第 1 の端部部分と、

- 第 2 の端部部分 (4 2 . 1 D) であって、

・ 前記第 1 の端部 (4 2 . 1 G) と軸方向反対側にあり、

・ その外部では前記第 2 の雄要素 (3 2 D) が前記連結位置で軸方向に展開し、

・ その内部では前記第 2 の雄要素が前記連結解除位置で軸方向に引込められ、

・ 前記第 2 の雄要素と結び付けられた前記駆動部材 (3 4 D) を内部に収容し、前記駆動部材と形状相補性により協働して、この駆動部材を前記軸 (Y - Y) に沿って並進運動で案内し、

・ 前記第 2 の雄要素と結び付けられた前記パネ (3 8) を収納して、前記パネのための支承を形成する、第 2 の端部部分と、

- 前記第 1 (4 2 . 1 G) および第 2 (4 2 . 1 D) の端部部分を互いに連結し、前記把持用隆起部 (3 6 G 、 3 6 D) に対する運動アクセス陥凹 (4 2 . 3) を形成する主部 (4 2 . 2) と、を含み、前記軸 (Y - Y) に沿って延在するシース (4 2) を含むことを特徴とする、請求項 4 に記載のベビーカーアクセサリ。

【請求項 7】

- 前記地面 (1 2 A V 、 1 2 A R) 上を転動するための支承輪が具備され、左垂直材 (1 6 G) を含む左後部部分 (1 1 . 1 G) および前記左垂直材に平行な右垂直材 (1 6 D) を含む右後部部分 (1 1 . 1 D) を含むフレーム (1 1) を含むベビーカー (1 0) であって、第 1 の雌収納部 (1 8 G) および第 2 の雌収納部 (1 8 D) がそれぞれ、前記左垂直材の前記面内および前記右垂直材の前記面内に削孔されており、これらの面が互いに対面している、ベビーカー (1 0) と、

- 連結位置にある前記第 1 の雄要素 (3 2 G) および前記第 2 の雄要素 (3 2 D) がそれぞれ前記第 1 (1 8 G) 雌収納部および前記第 2 (1 8 D) の雌収納部内に収容されて、ベビーカーアクセサリの前記装置 (2 3) が前記ベビーカーの前記左垂直材 (1 6 G) および右垂直材 (1 6 D) の間に取付けられた場合に、前記ベビーカー (1 0) の前記フレーム (1 1) に対して前記ベビーカーアクセサリを連結する、請求項 1 から 6 のいずれか 1 項に記載のベビーカーアクセサリ (2 0 ; 1 2 0 ; 2 2 0) と、

を含む、輸送アセンブリ (1 ; 1 0 1 ; 2 0 1) 。

【請求項 8】

それぞれ左垂直材 (1 6 G) および右垂直材 (1 6 D) の内部には、それぞれに前記フレーム (1 1) の同じ後輪列 (1 3) に連結するためのインサート (1 7 G 、 1 7 D) が具備されていること、および前記第 1 (1 8 G) 雌収納部および前記第 2 (1 8 D) の雌収納部がそれぞれ、前記左垂直材 (1 6 G) のインサート (1 7 G) 内および前記右垂直材 (1 6 D) のインサート (1 7 D) 内で境界画定されていること、を特徴とする請求項 7 に記載の輸送アセンブリ。

【請求項 9】

前記フレーム (1 1) には、前記アクセサリ (2 0 ; 1 2 0 ; 2 2 0) の前記装置 (2 3) が前記ベビーカー (1 0) の前記左 (1 6 G) および右 (1 6 D) の垂直材の間に取付けられ前記第 1 の雄要素および前記第 2 の雄要素がそれらの連結解除位置から連結位置まで進んだ場合に前記第 1 の雄要素 (3 2 G) および前記第 2 の雄要素 (3 2 D) の軌道上に前記第 1 (1 8 G) 雌収納部および前記第 2 (1 8 D) の雌収納部内を位置付けするように装置 (2 3) と形状相補性によって協働する前記アクセサリ (2 0 ; 1 2 0 ; 2 2 0) の位置付け用表面 (1 9 . 1 G) が具備されていること、を特徴とする請求項 7 または 8 に記載の輸送アセンブリ。

【請求項 10】

前記第 1 (1 8 G) 雌収納部および前記第 2 (1 8 D) の雌収納部内の前記連結位置に

ある前記第 1 の雄要素 (3 2 G) および前記第 2 の雄要素 (3 2 D) が、前記アクセサリ (2 0 ; 1 2 0 ; 2 2 0) の前記装置 (2 3) と前記ベビーカー (1 0) の前記フレーム (1 1) の間の枢動リンクを連動して形成すること、を特徴とする請求項 7 から 9 のいずれか 1 項に記載の輸送アセンブリ。

【請求項 1 1】

前記ベビーカー (1 0) が、前記ベビーカーによって搬送すべき子供を収容するのに好適な収容用部材 (1 5) の下に設置され、フレーム (1 1) に引掛けられた下部バスケット (1 0 . 1) を組込んでいること、および前記アクセサリ (1 2 0 ; 2 2 0) の前記シャーシ (1 2 1 ; 2 2 1) が、前記装置 (2 3) により前記ベビーカーの前記フレームに連結された状態にとどまりながら、前記ベビーカーの前記フレームとの関係において前記枢動リンクの周囲を枢動することによって前記下部バスケットの内部に折畳まれるように構成されていること、を特徴とする請求項 1 0 に記載の輸送アセンブリ。

10

【請求項 1 2】

前記アクセサリ (2 0) が、プラットフォーム (2 4) を含み、このプラットフォームは、前記シャーシ (2 1) が前記装置 (2 3) により前記ベビーカー (1 0) の前記フレーム (1 1) に連結され前記シャーシの前記支承輪 (2 2) が前記地面の上に載っている間、前記プラットフォーム (2 4) 上で立ち上ったり座ったりする子供を担持するのに好適なものであること、を特徴とする請求項 7 から 1 1 のいずれか 1 項に記載の輸送アセンブリ。

【請求項 1 3】

20

前記アクセサリ (1 2 0 ; 2 2 0) が、トートバッグ (1 2 5 ; 2 2 5) ならびに、このトートバッグ (1 2 5 ; 2 2 5) の底面 (2 2 5 . 1) により支持された少なくとも 1 つの第 1 の固定部材 (2 2 6) と、前記シャーシ (1 2 1 ; 2 2 1) のプラットフォーム (2 2 4) により支持された少なくとも 1 つの第 2 の固定用部材 (2 2 7) で構成され、第 1 の固定用部材および第 2 の固定用部材の間の可逆的かつ瞬間的な協働により前記シャーシに前記トートバッグを固定するのに好適である可逆的かつ瞬間的な固定用手段を含むこと、を特徴とする請求項 7 から 1 1 のいずれか 1 項に記載の輸送アセンブリ。

【請求項 1 4】

前記シャーシ (2 2 1) の前記プラットフォーム (2 2 4) が、
- 前記装置 (2 3) が配設される第 1 の長手方向端部 (2 2 4 . 1) と、
- 前記第 1 の長手方向端部と反対側の第 2 の長手方向端部 (2 2 4 . 2) と、
- 前記第 1 の長手方向端部および第 2 の長手方向端部を互いに連結し、前記少なくとも 1 つの固定用部材 (2 2 7) を担持する主部 (2 2 4 . 3) と、

30

を有する細長い形状を有すること、および前記シャーシ (2 2 4) には、前記プラットフォームに対し横断方向に延在し前記プラットフォームの前記第 2 の長手方向端部 (2 2 4 . 2) に配設され、枢動軸の周りで前記プラットフォーム (2 2 4) との関係において自由に枢動する形で具備された回転軸を有する、前記地面 (2 2 2) 上で転動するための単一の支承輪が具備されていること、を特徴とする請求項 1 3 に記載の輸送アセンブリ。

【請求項 1 5】

前記トートバッグ (1 2 5 ; 2 2 5) が、調整可能な容積の保管用小袋を形成するように変形可能である可撓性主本体 (2 2 5 . 2) および、前記ベビーカー (1 0) の前記フレーム (1 1) と前記トートバッグの前記主本体を直接取外し可能な形で連結するために好適な連結用部材 (2 2 5 . 3、2 2 5 . 4) を含むこと、を特徴とする請求項 1 3 または 1 4 に記載の輸送アセンブリ。

40

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、ベビーカーアクセサリならびにベビーカーおよびこのようなアクセサリを含む輸送アセンブリに関する。

【0002】

50

本発明は、より詳細には、時として商業的に「ボード」または「バギーボード」と呼ばれるベビーカーボードなどの転動するベビーカーアクセサリに関する。これらのベビーカーボードは、車輪が具備されかつベビーカーのフレームの後部部分に連結されるように具備されたプラットフォームを形成するシャーシを含む。ひとたび連結されたならば、ボードは、典型的には大人が押すベビーカーによって駆動されながら、地面上を転動する。ベビーカーとこれに連結されたボードによって形成された輸送アセンブリは、ベビーカー内に乗せられた一人目の子供と、概して一人目の子供より年上でボードのシャーシのプラットフォーム上に立っている二人目の子供の両方を輸送することを可能にする。このようなアセンブリは、年上の方は歩け、一方年下の方はさほどうまく歩けずさらには歩き始めていない、年の近い2人の子供を連れて移動しなければならないという問題を解決する。すなわち、年下の子供が大人の押すベビーカーに乗せられて輸送される間、年上の子供は、直ちに自分も乗って輸送されたいという望みを示し、これは、彼をボード上に登らせることで可能になり、こうして年上の子供は、輸送アセンブリを押している大人とベビーカー内で運ばれる年下の子供の間に置かれる。

【背景技術】

【0003】

実際には、ベビーカーはこのようなボードを常時組込んでいない。反対に、ボードは、ベビーカーとは別個のアクセサリとして提供され、ユーザは望むときにこれをベビーカーに取付けなければならない。ベビーカーの連結は典型的に可逆的であって、ボードがもはや有用でなくなった時点で、ユーザがこのボードを解除できるようになっている。このために、現在の解決法は、ベビーカーのフレームの後部部分に取付けられ、ボードのシャーシを引掛ける、いわゆる自在連結装置を使用することにある。これらの連結装置は、ベビーカーフレームのさまざまな形状に適應するように設計され、概して、把持、挟持、係止、押込み、ストラップ固定などにより、前記フレームの管状部分を取囲みかつ係合するためのジョーを含む。同一ボードは、2つの連結装置を含むことができ、これらは、ベビーカーのフレームの左および右の領域に取付けられる。国際公開第2005/039954号、独国特許第102010016921号、独国特許第20213,848号および米国特許出願公開第2004/0164510号に、例が示されている。全ての事例において、これらの連結装置は、工具の使用を必要としかつ/または複数の部品の操作を必要として、実施が面倒であると同時に、その実施が複雑であるためつねに安全であるわけではなく、ベビーカーのフレームの背面上に膨らんだゾーンを形成して極めて美的でないことが判明し、完全に取外されないかぎりベビーカーの折畳みを妨げる可能性があり、多くの場合ベビーカーフレームの損傷を導く。

【0004】

一方、本発明に最も近い技術的現状とみなすことのできる米国特許第3,387,859号は、オートバイ用のトレーラを開示する。このトレーラは、地面上を転動する支承輪が具備され、トレーラがオートバイに連結された場合に水平方向に延在するロッドを各側面を含むシャーシを含む。トレーラの2本のロッドは、離隔され、互いに反対側にある。これらのロッドは各々、圧縮バネによって起動させられるスライダを含む結合システムが備わった自由端部で終わる前部部分を含む。すなわち、応力が不在の場合、各結合システムの圧縮バネは、もう一方の結合システムのスライダに向けられた前記スライダの端部を形成するピンが、このもう一方のロッドの方に向けられた対応するロッドの面からこのもう1つの結合システムのスライダに向かって突出している展開位置に、対応するスライダを保つ。トレーラをオートバイの後部フレームに連結するために、シャーシのロッドのそれぞれの前部部分は、オートバイの後部フレームが前述のロッドのうちの1本のロッドの結合システムともう1本のロッドの結合システムとの間に来るような形で、オートバイの後輪の両側に位置付けされなければならない。すなわち、このとき、各結合システムのピンは、後部フレームの専用の要素と協働でき、より具体的には、外部に向けられた、つまりオートバイの後輪から離れる方向に向けられた前記要素の面と協働することができる。当然のことながら、実際には、オートバイの後部フレームにトレーラを取付け連結するた

10

20

30

40

50

めには2人の作業者が必要とされ、一方の作業者は、フレームの2本の上述のロッドのうちの一方を保持し、対応する結合システムを起動させ、他方の作業者は、もう一方のロッドを保持し、その結合システムを起動させなければならない。同様に、オートバイの後部フレームとの関係においてトレーラを結合解除し解放するために、2人の作業者が必要とされる。さらに、結合システムは、オートバイの後部フレームの両側で、危険であると同時に体裁も悪い突出する突起を形成する。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

本発明の目的は、堅固に、効率的に、美的に、かつ非常に容易に連結可能なベビーカーアクセサリを提案することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

この目的で、本発明は、クレーム1で定義されているベビーカーアクセサリに関する。

【0007】

本発明は同様に、クレーム7で定義されている輸送アセンブリにも関する。

【0008】

したがって、本発明の基礎にある考え方は、アクセサリの連結装置をユーザの片手だけで起動させることができ、このアクセサリの連結装置内にすでに一体化された部品とは別個の部品を追加または除去したり工具を使用したりすることなく瞬時に本発明に係るアクセサリを連結および連結解除できるようにすることである。この目的で、連結装置は、連結装置内に一体化され片手だけの作用を通して応力付加されるように設計された起動機構により移動可能な形で連結されているピンなどの2つの取外し可能な雄要素を含む。この機構は応力付加された時点で、特にベビーカーとの関係においてアクセサリを解放するために雄要素がアクセサリとベビーカーフレームの間の相対的移動を可能にする連結解除位置へと雄要素を移動させ、一方、応力付加が全く無い場合、この機構は、これらの雄要素が前記フレームのそれぞれ左右の後部部分のそれぞれ左右の垂直材内に具備されたベビーカーのフレームの相補的な雌部分内に収納されるように設計されている連結位置まで、自動的に雄要素を戻す。これらの雌部分は、互いに対面しているベビーカーの左右の垂直材のそれぞれの面の中に削孔されている。すなわち、連結装置は、アクセサリをベビーカーのフレームに連結するために垂直材間に取付けられることができ、かつベビーカーとの関係においてアクセサリを解放するために垂直材間から除去され得るように、垂直材の前記面の間に設置されるように設計されている。したがって、ベビーカーとの関係におけるアクセサリの設置および除去の間、ユーザは有利にもアクセサリを片手だけで保持しその手で連結装置の機構に応力付加できることから、この連結装置は操作が非常に容易である。雄要素をその連結解除位置から連結位置まで移動させて、連結装置がベビーカーのフレームの垂直材間に取付けられた時点でアクセサリを連結するために雌収納部内に雄要素を挿入するためには、ユーザは、そのときまで雄要素を連結解除位置に保つために自らが加えていた手による応力を解除し、機構は自動的に雄要素に作用してこれらの雄要素を可能な限り雌収納部内に係合させ、これにより、アクセサリとベビーカーの間の連結の確立は極めて効率的で安全なものとなる。ひとたび連結されると、アクセサリは、機構によって連結位置に保たれた雄要素とベビーカーのフレーム内に一体化された雌収納部との間の形状相補性による協働により、ベビーカーにしっかりと連結される。雄要素が、その目的で手により応力付加された機構により連結解除位置に保持されている場合、アクセサリは、ベビーカーのフレームとの関係において自由に解放され得、そのとき空となるその雌収納部は、当然のことながら突出していないため、ベビーカーのフレームの全体的美観に影響を及ぼさない。他の利点は、本明細書の残りの部分で明らかになる。

【0009】

一実施形態によると、本発明に係るアクセサリは、上述のタイプのベビーカーボードである。したがって、本発明に係るアクセサリは、以下で標示するような他の形態で製造さ

10

20

30

40

50

れてよく、その連結装置も同様にアクセサリ内に恒久的に一体化された状態でまたは、ベビーカーのシャーシにより取外し可能な形で担持された状態で提供され得る。

【0010】

本発明に係るベビーカーおよび輸送アセンブリの追加の有利な特徴は、他のクレーム中で規定されている。

【0011】

本発明は、単なる一例として提供され、図面を参照しながら記されている以下の説明を読んだ時点で、より良く理解されるものである。

【図面の簡単な説明】

【0012】

10

【図1】本発明に係る輸送アセンブリの斜視図である。

【図2】図1の輸送アセンブリのベビーカーの後部部分の斜視図であり、ここでこのベビーカーは単独で示されている。

【図3】図2の平面IIIに沿った部分的断面を伴う、図2のベビーカーの一部分の概略的立面図である。

【図4】図1の輸送アセンブリに属するアクセサリの斜視図であり、ここでこのアクセサリは単独で示されている。

【図5】図1の平面Vに沿った部分的断面を伴う、図1の輸送アセンブリの一部分の概略的立面図である。

【図6】図5のものとは異なる機能的構成で輸送アセンブリを示す、図5に類似する図である。

20

【図7】図1の輸送アセンブリのベビーカーと結び付けられた、本発明に係るアクセサリの別の実施形態を例示する、図1に類似した図である。

【図8】図1の輸送アセンブリのベビーカーと結び付けられた、本発明に係るアクセサリの別の実施形態を例示する、図4に類似した図である。

【図9】図1の輸送アセンブリのベビーカーと結び付けられた、本発明に係るアクセサリのさらに別の実施形態を例示する、図1および7にそれぞれ類似する図である。

【図10】図9のものとは異なる観察角度から図9のアクセサリのみを示す斜視図である。

【図11】図9のアクセサリの一部分の使用構成をベビーカーと共に例示する斜視図である。

30

【図12】互いに異なるそれぞれの使用構成での、図1のベビーカーと共に使用された図9のアクセサリの斜視図である。

【図13】互いに異なるそれぞれの使用構成での、図1のベビーカーと共に使用された図9のアクセサリの斜視図である。

【図14】互いに異なるそれぞれの使用構成での、図1のベビーカーと共に使用された図9のアクセサリの斜視図である。

【図15】互いに異なるそれぞれの使用構成での、図1のベビーカーと共に使用された図9のアクセサリの斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【0013】

40

図1～6は、ベビーカー10およびベビーカーアクセサリ20を含む輸送アセンブリ1を示す。図1および5において、アクセサリ20は、以下で詳述されるように、ベビーカー10に連結されており、一方他の図では、アクセサリ20はベビーカー10から連結解除されている。

【0014】

ベビーカー10とアクセサリ20の間の連結を可能にするベビーカー10に対する整備以外、ベビーカー10は典型的に公知のものの範囲内に入り得る。したがって、ベビーカー10は、支持枠組を形成し例えば主として管アセンブリで作られたフレーム11を含み、対応する管構造は、図1に示された展開された使用構成から折畳まれた保管構成までフレーム11を移動させるために、折畳むことができる。使用中通常は下を向いている側で

50

、フレーム 11 には、地面上を転動するための支承輪が具備されており、これらの車輪は、1つ以上の前輪 12AV および後輪 12AR を含む。図中で考慮されている例示的实施形態においては、2つの後輪 12AR が具備されており、図 1 ~ 3 に明確に示されている通り、そのそれぞれがフレーム 11 の左側および右側に位置している。後輪 12AR の数の如何に関わらず、前記後輪 12AR は、有利にも、フレーム 11 の後部列 13 により支持されている。すなわちここで考慮されている例では、この後輪列 13 は、有利にも、図 2 および 3 に明確に示されているように後輪 12AR のそれぞれのハブを支持する相対する端部を有する車軸ロッド 13.1 を含む。以下でより詳細に説明する、アクセサリ 20 をベビーカー 10 に連結することを可能にするフレーム 11 に対する整備以外、フレーム 11 は、本発明を限定するものではない実施形態を有する。

10

【0015】

ベビーカーについてそれ自体公知であるように、ベビーカー 10 のフレーム 11 には、以下のものも同様に具備されている：

- ロッド、取っ手などの押圧用部材 14。この押圧用部材 14 は、ベビーカー 10 の後ろを歩く大人がフレーム 11 を前向きに押して、フレーム 11 の車輪 12AV および 12AR によってフレームを地面上で転動させることを可能にする；

- シート、バスケット、バシネットなどの収容用部材 15。この収容用部材 15 は、ベビーカー 10 により搬送すべき子供を収容することを可能にし、ここで子供は、前記収容用部材 15 内で、座位、リクライニング位またはこれらの間の中間位に置かれる。

【0016】

20

押圧用部材 14 および収容用部材 15 は、本発明を限定するものではない実施形態を有する。さらに、前記押圧用部材および/または前記収容用部材 15 は、そのようなものとして公知である追加の整備を有することができる。一例として、収容用部材 15 は、フレーム 11 により取外し可能な形で担持され得る。

【0017】

ここで考慮されている例示的实施形態においては、図 2 および 3 に明確に示されているように、フレーム 11 のそれぞれの左後部部分 11.1G および右後部部分 11.1D は、それぞれの垂直材、すなわち左垂直材 16G と右垂直材 16D を含む。これらの垂直材 16G および 16D は互いに平行で、後輪列 13 から上向きに延在する。左垂直材 16G について図 3 に示されているように、前記垂直材 16G および 16D の各々には、対応する垂直材を補強し、対応する垂直材と後輪列 13 の間、詳細には前記列 13 の車軸ロッド 13.1 のそれぞれ左または右の対応する端部と前記垂直材の間で機械的リンクを形成するインサート 17G が内部に具備されている。後輪列 13 と垂直材 16G および 16D のそれぞれのインサートとの間のリンクの整備は、特に前記フレームの後輪列 13 を用いてフレーム 11 の左後部部分 11.1G と右後部部分 11.1D の間の剛性アセンブリ接合部に対し高水準の頑丈性を付与することによって、これらの整備が、垂直材 16G および 16D、より一般的にはフレーム 11 の左後部部分 11.1G および 11.1D に加えられた荷重を後輪列 13 に対して効率的に伝播するかぎりにおいて、限定的なものではない。

30

【0018】

40

以下で明らかになる理由から、フレーム 11 の左後部部分 11.1G および右後部部分 11.1D には各々、雌収納部 18G、18D が具備されている。図 2 および 3 に明確に示されているように、これらの雌収納部 18G および 18D は、それぞれ、互いに相対する左垂直材 16G の面および右垂直材 16D の面内に削孔され、それぞれ前記垂直材の内部インサートの厚み内に延在する。換言すると、雌収納部 18G および 18D は、大部分が、左垂直材 16G、そのインサート 17G および雌収納部 18G について図 3 に明確に示されているように、互いに対面して向けられた垂直材 16G および 16D のそれぞれの部分内を通過しながら前記垂直材の外部に出現して、それぞれ垂直材 16G および 16D の内部インサートによって境界画定されている。図 2 に明確に示されているように、雌収納部 18G および 18D は、有利には、垂直材 16G および 16D に直交して延在する同

50

じ幾何学的軸 X - X 上に心出しされている。

【 0 0 1 9 】

同じく以下でその利点が明らかになる 1 つの任意の配設によると、フレーム 1 1 には、雌収納部 1 8 G および 1 8 D とそれぞれ結び付けられた左 1 9 G および右 1 9 D のクレードルが具備されている。図 2 に明確に示されているように、これらのクレードル 1 9 G および 1 9 D は、雌収納部 1 8 G および 1 8 D の下方に配設されている。すなわち、クレードル 1 8 G および 1 8 D は、このように、それぞれの上部表面を境界画定し、そのうちクレードル 1 9 G の上部表面が図 2 および 3 に見え、1 9 . 1 G と付番されており、これらの表面は、軸 X - X と同心的に対応する雌収納部 1 8 G、1 8 D の周囲の下部部分を取り囲みながら、対応する垂直材 1 6 G、1 6 D から突出している。図中で考慮されている例示的实施形態において、クレードル 1 9 G および 1 9 D は、それぞれ車軸ロッド 1 3 . 1 の相対する端部内に一体化されながら、後輪列 1 3 内に一体化されている。使用中、クレードル 1 9 G および 1 9 D がフレーム 1 1 によって固定的に支持されているかぎり、他の実施形態を企図することが可能である。

10

【 0 0 2 0 】

図 1 および 4 に明確に示されているように、アクセサリ 2 0 は、主として以下のものを具備したシャーシ 2 1 を含む：

- 使用中地面の方に向けられているシャーシ 2 1 の側の、地面 2 2 上を転動する 1 つ以上の支承輪、および
- シャーシの前部側の、ベビーカー 1 0 のフレーム 1 1 に対するアクセサリ 2 0 の可逆的連結を可能にする、以下でより詳細に説明される装置 2 3。

20

【 0 0 2 1 】

図中で考慮される例示的实施形態において、車輪 2 2 は 2 個具備され、両方がシャーシ 2 1 の後方に位置設定される。これら 2 つの車輪 2 2 は有利にも、全方向性であるように想定され、ここで「全方向車輪」とは、前記車輪が地面上を転動するときはその回りを自転するその回転軸が、この回転軸に対し直角にまたは半径方向に延在する枢動軸を中心としてシャーシ 2 1 の残りの部分との関係において自由に枢動する車輪のいずれかの側で回転軸を支持するヨークを介して典型的に提供されている車輪を意味しており、こうして車輪は、その回転軸の周りの転動とは独立して、枢動軸を中心として枢動し、こうしてシャーシ 2 1 の残りの部分との関係における車輪の配向ひいては地面上のシャーシについての前進方向を修正することができるようになっている。ここでは全方向車輪と呼ばれるこのタイプの車輪は、「枢動キャスト」とも呼ばれる。このため、アクセサリ 2 0 の車輪 2 2 の数、位置および固有の整備は、限定的なものではなく、ここで考慮されている例と異なっていてよい。

30

【 0 0 2 2 】

図中で考慮されている実施形態において、シャーシ 2 1 は、装置 2 3 によりベビーカー 1 0 のフレーム 1 1 にアクセサリ 2 0 が連結された場合、特に上を向いたその面について、包括的に水平方向に延在するプラットフォーム 2 4 を含む。使用中、前記プラットフォーム 2 4 は、上を向いたプラットフォームの面上に立つ子供を収容することを可能にする。図 1 および 4 に示された 1 つの任意の配設によると、プラットフォーム 2 4 には、プラットフォーム 2 4 上に立っている子供が座ることのできるシート 2 5 が備わっている。換言すると、アクセサリ 2 0 がベビーカー 1 0 に連結されている場合、シャーシ 2 1 は、その車輪 2 2 を介して地面上を転動しながら、プラットフォーム 2 4 上に立っているかまたは座っている子供を支持することができる。したがって、アクセサリ 2 0 は、本明細書の序の部分に言及されているもののようなベビーカーボードに匹敵する。実際には、非限定的に、シート 2 5 は、プラットフォーム 2 4 の残りの部分との関係において取外し可能となるように想定され得る。より一般的には、アクセサリ 2 0 により搬送される子供の収容および着座との関係におけるプラットフォーム 2 4 の整備は、本発明を限定するものではない。

40

【 0 0 2 3 】

50

アクセサリ 20 をベビーカー 10 に連結するために、アクセサリ 20 の装置 23 は、図 1、5 および 6 に示されているように、フレーム 11 の左 11 . 1 G および右 11 . 1 D の部分で、特に左垂直材 16 G と右垂直材 16 D の間に連結される。フレーム 11 の直ぐ近傍でのアクセサリ 20 の嵩を最小限に抑えるため、シャーシ 21 は有利には、ロッド 26 を含む。すなわち、図 1 および 4 ~ 6 に示されているように、前記ロッド 26 はブラットフォーム 24 を前方に延長させ、ロッド 26 の前端部は装置 23 を担持する。したがってロッド 26 の両側において、このロッドは、フレーム 11 の後部のそれぞれ左右の側面へのアクセスを自由な状態に残す。図で考慮されている例示的实施形態において、この整備はこうして、図 5 および 6 に明確に示されているように、後輪列 13 の右部分により担持されたベビーカー 10 の制動制御部材 13 . 2 に対するアクセスを自由な状態に残す。

10

【 0 0 2 4 】

図 4 ~ 6 に示されているように、装置 23 は、使用中、シャーシ 21、特にここで考慮されている例においてはロッド 26 の前端部に対して固定的に連結されている支持体 30 を含む。実際には、支持体 30 とシャーシ 21 の間の固定的連結を、恒久的に行なうことができ、その場合支持体 30 はシャーシ 21 により回復不能な形で担持され、あるいはこの固定的連結を取外し可能な形で行なうこともでき、その場合支持体 30 ひいては装置 23 をシャーシ 21 から、より一般的にはアクセサリ 20 の残りの部分から、切り離すことができる。換言すると、装置は、アクセサリ 20 に恒久的に一体化されるかまたはアクセサリ 20 の残りの部分から分離可能であり得る。アクセサリ 20 が使用されるとき間に固定的連結を生成する装置 23 とシャーシ 21 の対応する整備は、本発明を限定するものではなく、それ自体公知の配設により実施され、ここではこれらの配設についてさらに詳述することはしない。

20

【 0 0 2 5 】

装置 23 は同様に、図 4 ~ 6 に見られる、それぞれ左 32 G および右 32 D の 2 つの雄要素も含んでいる。雄要素 32 G および 32 D は各々、雄要素 32 G、32 D が支持体 30 との関係において展開されている図 4 および図 5 に示された連結位置と、雄要素が支持体 30 との関係において引込められている図 6 に示された連結解除位置との間で、シャーシ 21 との関係において可動な形で支持体 30 により支持されている。装置 23 がフレーム 11 の左 11 . 1 G および右 11 . 1 D の後部部分に、特に垂直材 16 G および 16 D の間で、より詳細には雌収納部 18 G および 18 D において取付けられた場合、雄要素 32 G および 32 D は、連結位置において、左雄要素 32 G および左雌収納部 18 G について図 5 に示されているように、それぞれ雌収納部 18 G および 18 D 内に收容されており、一方雄要素 32 G および 32 D は、連結解除位置において、左雄要素 32 G および左雌収納部 18 G について図 6 に示されているように、雌収納部 18 G および 19 G の外部にある。雄要素 32 G および 32 D の各々は、図 5 に示されているように、前記収納部内に相補的に收容されるように、その雄要素が結び付けられている雌収納部 18 G、18 D に対し任意の機能的あそびを除いて相補的であるように想定されている。非限定的な例として、雄要素 32 G および 32 D は、ピンを含む、さらにはピンで構成され、雄要素と雌収納部 18 G および 18 D の間の形状相補性が保証されるかぎりにおいて、さまざまな実施形態を企図することができるということが理解される。

30

40

【 0 0 2 6 】

1 つの特に有利な実際の配設によると、雄要素 32 G および 32 D は同じ幾何学的軸 Y - Y 上に心出しされ、前記軸 Y - Y に沿ってそれらの連結位置と連結解除位置の間で並進運動できる。アクセサリ 20 をベビーカー 10 に連結するために、装置 23 が雌収納部 18 G および 18 D においてフレーム 11 の後部部分 11 . 1 G および 11 . 1 D に取付けられた場合、雄要素 32 G および 32 D の軸 Y - Y は、図 5 および 6 に示されているように、雌収納部 18 G および 18 D の軸 X - X と実質的に一体となる。この連結解除位置からその連結位置まで移行するために、雄要素 32 G および 32 D の各々は、対応する雌収納部 18 G、18 D の内部で軸 Y - Y に沿って並進運動し、一方その連結位置から連結解除位置まで移行するためには、雄要素 32 G および 32 D は各々、同様に軸 Y - Y に沿っ

50

て並進運動するが、対応する雌収納部 18 G、18 D から完全に退出するように反対方向に並進運動する。図中で考慮されている例示的实施形態については、雌収納部 18 G および 18 D が互いに軸方向に向かい合っていることから、雄要素 32 G および 32 D がその連結位置から連結解除位置まで進む並進運動の方向は、互いに反対である。すなわち換言すると、雄要素 32 G および 32 D がその連結位置から連結解除位置まで並進運動する場合、これらの雄要素は、図 5 および 6 を比較することで示されるように、軸 Y - Y に沿って互いに接近する。

【0027】

本明細書中で考慮されている例示的实施形態において実施される 1 つの有利な任意の配設によると、雄要素 32 G および 32 D の各々およびその対応する雌収納部 18 G、18 D は、雄要素が連結位置にある場合軸 Y - Y を中心にして互いとの関係において枢動するように構成されている。実際には、この目的で雄要素 32 G および 32 D および雌収納部 18 G および 18 D は、軸 X - X および Y - Y に心出しされた、相補的な円筒形の構成を有する。この枢動を可能にする雄要素 32 G および 32 D および雌収納部 18 G および 18 D のそれぞれの整備の特異性の如何に関わらず、こうして、装置 23 とフレーム 11 の間の軸 Y - Y の周りの枢動リンクは、雌収納部 18 G および 18 D 内の連結位置にある雄要素 32 G および 32 D により連動して形成される。すなわち、結果として、アクセサリ 20 がベビーカー 10 に連結された場合、障害物通過そしてより一般的には不規則な地面上的移動は、軸 Y - Y を中心としたベビーカー 10 とアクセサリ 20 の間の自由な相対的枢動によって、輸送アセンブリ 1 にとってより容易になる。

【0028】

装置 23 はさらに、雄要素 32 G および 32 D を手動式にその連結位置から連結解除位置までそれぞれ駆動できるようにする、それぞれ左 34 G および右 34 D の部材を含む。部材 34 G および 34 D の各々は、対応する雄要素 32 G、32 D に、この雄要素の連結位置と連結解除位置の間で運動学的にリンクされている。実際には、この運動学的リンクの実施形態は、本発明を限定するものではない。ここで考慮されている例の中で実施される 1 つの実用的形態において、部材 34 G および 34 D は各々、対応する雄要素 32 G、32 D、特に連結位置にある場合に対応する雌収納部 18 G、18 D の内部に導入されていないこの雄要素の部分に、しっかりと固定されている。一例として、こうして雄要素 34 G および 34 D の各々は、ロッドを含み、このロッドの内部には、例えば嵌合またはオーバーモールドにより、図 5 および 6 に示されているような対応する雄要素 32 G、32 D の前述の部分がしっかりと固定されている。図示されていない変形形態において、雄要素 32 G および 32 D の各々そしてその結び付けられた部材 34 G、34 D は、同様にモノブロックであり得る。

【0029】

実際には、支持体 30 は、部材 34 G および 34 D を支持し、それと同時に、雄要素 32 G および 32 D の手動式駆動を目的としたそれらの移動を可能にする。

【0030】

部材 34 G および 34 D 各々の実施形態の如何に関わらず、この部材には、ユーザの手による対応する部材の把持ひいては移動の制御を可能にする隆起部 36 G、36 D が具備されている。ここで考慮されている例中で実施される 1 つの実用的かつ比較的嵩高くない実施形態によると、隆起部 36 G および 36 D はそれぞれ、対応する雄要素 32 G、32 D とは反対側の対応する部材 34 G、34 D の端部により担持されている。

【0031】

あらゆる場合において、隆起部 36 G および 36 D は、部材 34 G および 34 D の連動した移動を制御するため、ひいては雄要素 32 G および 32 D をその連結位置から連結解除位置まで連動して駆動するため、ユーザの同じ手により、連動して応力付加されるように構成されている。この目的で、隆起部 36 G および 36 D の実施形態は、ユーザの同じ手が 2 つの隆起部 36 G および 36 D に連動して応力付加できこうして一方ではこの応力付加が両方の雄要素 32 G および 32 D がその連結位置にある間に開始され得、他方では

この応力付加が部材 3 4 G および 3 4 D を介して 2 つの雄要素 3 2 G および 3 2 D をその連結解除位置まで駆動するまで継続され得るようになるかぎりにおいて、限定的ではない。実際には、多数の幾何学的構成を隆起部 3 6 G および 3 6 D について企図することができる。すなわち、図中で考慮されている例示的实施形態において、隆起部 3 6 G および 3 6 D は、各々、円形の断面形状を伴うアイレットを含むことができ、このアイレットは、図示されていない変形形態として、卵形、矩形、方形、任意のパターンなどの断面形状を有し得ると考えられる。同様に、図示されていない一変形形態として、図中で考慮されているアイレットのような閉鎖した断面形状を有するのではなくむしろ、隆起部 3 6 G および 3 6 D は、例えば「U 字形」、「C 字形」、任意のパターンなどの形状の開放した断面形状を有していてもよい。

10

【0032】

手による把持を容易にするため、隆起部 3 6 G および 3 6 D は有利には、各々、ユーザの指の 1 本により応力付加されるようにサイズ決定される。すなわち、こうして、隆起部 3 6 G および 3 6 D はこのとき、ユーザの同じ手の 2 本の指によってそれぞれ応力付加されて、2 つの雄要素 3 2 G および 3 2 D を連動して駆動することができる。この配設は、隆起部 3 6 G および 3 6 D についての上述のさまざまな幾何学的構成によって、これらの隆起部が人間の指のサイズと関連してひとたび寸法決定された時点で実施可能である。

【0033】

以上の考慮事項の延長線上で、雄要素 3 2 G および 3 2 D が軸 Y - Y に沿って並進運動可能でその連結位置から連結解除位置まで進むように互いに近づく、図中に示されたもののような実施形態において、同様に軸 Y - Y に沿って並進運動可能である部材 3 4 G および 3 4 D は、有利には、雄要素 3 2 G および 3 2 D をその連結位置から連結解除位置まで連動して駆動するために手で応力付加された場合、その隆起部 3 6 G および 3 6 D を軸 Y - Y に沿って互いにより接近させる。すなわち、親指および人指し指などの同じ手の 2 本の指により隆起部 3 6 G および 3 6 D それぞれに応力付加することによって、図 5 および 6 を比較することによって示される通り、ユーザはこうして、自らの 2 本の指を合わせること、すなわち互いに接近させること、典型的には手で挟持動作を行なって、この締付けが隆起部 3 6 G および 3 6 D の軸 Y - Y に沿った接近を引き起こすことによって、雄要素 3 2 G および 3 2 D をその連結位置から連結解除位置まで容易に駆動することができる。

20

【0034】

装置 2 3 は同様にバネ、すなわち左バネと右バネも含んでおり、図 5 および 6 には、3 8 という参照番号で左バネのみが見えている。これら 2 つのバネは、支持体 3 0 によって支持されている。以下では、左バネ 3 8 についてのみ詳細に説明するが、これは、左バネが装置 2 3 の左部分と協働するのと同じ要領で、右バネがこの装置 2 3 の右部分と協働するため、右バネが左バネ 3 8 と類似しているからである。左バネ 3 8 は、左部材 3 4 G と支持体 3 0 の間に機械的に挿入されて、前記部材 3 4 G を弾性的に復帰させて、隆起部 3 6 G 上に応力付加が無い場合に連結解除位置から連結位置まで左雄要素 3 2 G を並進運動させる。図中で考慮されている例示的实施形態において、左バネ 3 8 は、特に軸 Y - Y に沿って、前記支持体 3 0 と部材 3 4 G の間で伸長する方向に作用するように支持体 3 0 により支持されている圧縮バネである。すなわち、部材 3 4 G が、左雄要素 3 2 G をその連結位置から連結解除位置まで駆動するためにユーザの手による応力付加により移動制御されるとき、バネ 3 8 は、特に軸 Y - Y に沿って寸法を短縮することによって圧縮され、こうして、手による応力が弛められた時点で、バネ 3 8 は弾性的に弛み、したがって、反対方向への部材 3 4 G の移動を自動的に制御し、換言すると、左雄要素 3 2 G をその連結解除位置から連結位置まで駆動することになる。当然のことながら、バネ 3 8 については、左雄要素 3 2 G の連結解除位置から連結位置への弾性復帰を保証するものであるかぎり、他の実施形態を企図することが可能である。その実施形態の如何に関わらず、バネ 3 8 は、左雄要素 3 2 G をその連結位置から連結解除位置まで駆動するためにバネ 3 8 の弾性抵抗を克服する手による応力をユーザが部材 3 4 G に対し適用しないかぎり、左雄要素 3 2 G をその連結位置に弾性的に保持する、ということが理解される。

30

40

50

【 0 0 3 5 】

ここで、上述のように、図中には見られない装置の右バネが、右雄要素 3 2 D および部材 3 4 D に対し、左雄要素 3 2 G および部材 3 4 G 上で左バネ 3 8 が生成するものと類似の効果を生み出す、という点を喚起しておく。

【 0 0 3 6 】

ここまで示されてきた説明を考慮すると、部材 3 4 G および 3 4 D および装置 2 3 の左バネ 3 8 および右バネが共に雄要素 3 2 G および 3 2 D を起動させて、以下のことを可能にする機構 4 0 を形成することが分かる：

- ユーザの単一の手により適用される、特に隆起部 3 6 G および 3 6 D における前記機構 4 0 への応力により、機構 4 0 は、特にその部材 3 4 G および 3 4 D を介して、連動して、雄要素 3 2 G および 3 2 D をその連結位置から連結解除位置まで駆動する、

10

- 機構 4 0 に対し手による応力が全く適用されない場合、この機構は、自動的に、特にその左バネ 3 8 および右バネを介して、連結解除位置から連結位置まで雄要素 3 2 G および 3 2 D を復帰させる。

【 0 0 3 7 】

当然のことながら、部材 3 4 G および 3 4 D および左バネ 3 8 および右バネに基づくこの雄要素 4 0 の実施形態は、前記機構 4 0 の考えられるわずかに 1 つの構成例に過ぎず、これまで言及してきた変形形態ならびに当業者の一般的知識に基づく多数の実施形態を、その全てが直ぐ上で説明した形で雄要素 3 2 G および 3 2 D を起動させるかぎりにおいて、企図することが可能である。

20

【 0 0 3 8 】

図中で考慮されている例において実施され、雄要素 3 2 G および 3 2 D がその連結位置と連結解除位置の間で制御された軌跡に沿って移動させられることを可能にする 1 つの有利な任意の配設によると、支持体 3 0 は、雄要素 3 2 G および 3 2 D および機構 4 0 を支持することに加えて前記機構および / または前記雄要素を案内するように設計される。詳細には、この目的で支持体 3 0 は、シース 4 2 を含み、このシースは、軸 Y - Y に心出しされながらこの軸に沿って延在し、図 4 ~ 6 に示されているようにシース 4 2 の主部 4 2 . 2 により互いに連結された 2 つの相対する端部部分、すなわち左端部部分 4 2 . 1 G および右端部部分 4 2 . 1 D を含む。

【 0 0 3 9 】

30

端部部分 4 2 . 2 G および 4 2 . 1 G はそれぞれ、連結位置にある雄端部 3 2 G および 3 2 D が、図 4 および 5 に示されているように、これらの端部部分の外部で軸方向に展開し、連結解除位置にある雄要素 3 2 G および 3 2 D が図 6 に示されているように、これらの端部部分の内部に引込むような形で、想定されている。さらにこれらの端部部分 4 2 . 1 G および 4 2 . 1 D は、軸 Y - Y に沿って並進運動するように案内するために部材 3 4 G および 3 4 D と形状相補性により協働しながら前記部材をそれぞれその内部に収容し、ここでこの形状相補性による協働は、例えば端部部分 4 2 . 1 G および 4 2 . 1 D の内径と部材 3 4 G および 3 4 D の外径の間で提供される。さらに、これらの端部部分 4 2 . 1 G および 4 2 . 1 D は、有利には全体的に、左バネ 3 8 および装置 2 3 の右バネをそれぞれ収納し、このバネのための特に軸方向の支承を形成する。その上、特に、ユーザが容易かつ快適に隆起部 3 6 G および 3 6 D に対し手による応力を適用できるように、シース 4 2 の主部 4 2 . 2 は、陥凹 4 2 . 3 を形成し、この陥凹により、図 4 ~ 6 に示されているように、ユーザの手は隆起部 3 6 G および 3 6 D にアクセスして、特にそれぞれ手の 2 本の指を用いてそれらを把持し応力付加することができる。

40

【 0 0 4 0 】

陥凹 4 2 . 3 は有利には、雄要素 3 2 G および 3 2 D が連結解除位置にあるとき、図 6 に示されているように、互いに他の部材 3 4 D、3 4 G の方に向いた各部材 3 4 G、3 4 D の端部がシース 4 2 の対応する端部部分 4 2 . 1 G、4 2 . 1 D の外部そして結果として陥凹 4 2 . 3 の内部に配設されている方向で、前記陥凹の内部に部材 3 4 G および 3 4 D が部分的に見え、その一方で、雄要素 3 2 G および 3 2 D が連結位置にある場合には、

50

図 5 に示されているように、シース 4 2 の端部部分 4 2 . 1 G および 4 2 . 2 G の内部に完全にまたは事実上完全に収納されながら、部材 3 4 D および 3 4 G の大部分さらには全体が陥凹 4 2 . 3 の外になるような形で構成され得る。雄要素 3 2 G および 3 2 D が連結解除位置にあるとき部材 3 4 D および 3 4 G が陥凹 4 2 . 3 内に部分的に見え、雄要素が連結位置にあるときには、少なくとも大部分が前記陥凹内に見えないという事実を用いて、ユーザは、雄要素が実際に自らが望む位置にあることを保証することができる。特に、雌収納部 1 8 G および 1 8 D と係合するように雄要素が自動的に連結解除位置から連結位置まで進むように、ベビーカー 1 0 の垂直材 1 6 G および 1 6 D の間に連結装置 2 3 を取付けた後、ユーザが連結装置に対する手によるあらゆる応力を解除する場合、ユーザは、陥凹 4 2 . 3 を観察することによって、図 5 の場合のように、部材 3 4 G および 3 4 D がシース 4 2 の端部部分 4 2 . 1 G および 4 2 . 1 D の内に見えなくなったことを目視で確認することができる。すなわち、図 6 の場合のように、部材 3 4 G および 3 4 D の一方および / または他方がなおも陥凹内に見える場合、雄要素 3 2 G および 3 2 D の一方および / または他方は、さまざまな予期できない理由から、結び付けられた雌収納部 1 8 G、1 8 D 内にないかまたは正しく係合されておらず、このときこのことによってユーザはアクセサリ 2 0 とベビーカー 1 0 の間の効率的なまたは完全な連結の不具合について知らされることになる。実際には、この目視を容易にするため、雄要素 3 2 G および 3 2 D が連結解除位置にある場合にもう一方の部材 3 4 D、3 4 G の方を向いていて、陥凹 4 2 . 3 内に見えている各部材 3 4 G、3 4 D の端部を着色するかまたは警告パターン、例えばカラー矢印などをこの端部に具備することができる。

【 0 0 4 1 】

外見上、シース 4 2 は有利には、ベビーカー 1 0 のフレーム 1 1 の後部部分 1 1 . 1 G および 1 1 . 1 D の対面した装置 4 3 の位置付けを容易にするように寸法決定されている。より具体的には、図 5 および 6 に示されているように、シース 4 2 の軸 Y - Y に沿った合計寸法は、任意の機能的あそびを除いて、軸 X - X に沿って雌収納部 1 8 G および 1 8 D のそれぞれの開口を離隔する距離に等しい。すなわち、こうして、雄要素 3 2 G および 3 2 D が連結解除位置にあるとき、軸 Y - Y が軸 X - X に平行である状態で、フレーム 1 1 の後部部分 1 1 . 1 G および 1 1 . 1 D の間、特に垂直材 1 6 G および 1 6 D の間にシース 4 2 を配設することができる。さらに、シース 4 2 の端部部分 4 2 . 1 G および 4 2 . 1 D のそれぞれの外面は有利には、軸 Y - Y および X - X を整列させるため、クレードル 1 9 G の表面 1 9 . 1 G などのクレードル 1 9 G および 1 9 D のそれぞれの上部表面に接して形状相補性により自らを位置付けすることによって、クレードル 1 9 G および 1 9 D とそれぞれ干渉するようにサイズ決定される。すなわち、シース 4 2 の端部部分 4 2 . 1 G および 4 2 . 1 D の外面を相補的かつ同心的に収容することにより、クレードル 1 9 G および 1 9 D の上部表面は、雌収納部 1 8 G および 1 8 D を雄要素 3 2 G および 3 2 D と整列させ、こうして雄要素がその連結解除位置から連結位置へと移行するとき雄要素の軌跡上に前記収納部を位置付けする。

【 0 0 4 2 】

輸送アセンブリ 1 の使用は、以下の通りである。

【 0 0 4 3 】

輸送アセンブリ 1 が図 1 および 5 に示された構成にある場合、すなわちアクセサリ 2 0 が装置 2 3 を用いてベビーカー 1 0 に連結された場合、この輸送アセンブリ 1 は、ベビーカー 1 0 内の一人の子供そしてアクセサリ 2 0 上の別の子供を二人共搬送することを可能にする：すなわち、最初の子供は、収容用部材 1 5 内に乗せられ、一方二人目の子供は、アクセサリ 2 0 のプラットフォーム 2 4 上に立つかまたは座らされている。一人の大人が、押圧用部材 1 4 を押すことにより、地面上に輸送アセンブリ 1 を転動させることができる。すなわち、このように前方に駆動されたベビーカー 1 0 は、装置 2 3 を用いて、特に連結位置にある雄要素 3 2 G および 3 2 D と前記雄要素を収容する雌収納部 1 8 G および 1 8 D の間の協働によりアクセサリ 2 0 を牽引する。牽引力の伝達は効率的かつ持続的であり、対応する応力は、垂直材 1 6 G および 1 6 D そしてとりわけ、これらの応力を後輪

列 1 3 に伝えるインサート 1 7 G および 1 7 D によって効率的に吸収される。こうして、輸送アセンブリ 1 は、極めて頑丈である。例えば障害物を横断するときなどの、不規則な地面上で輸送アセンブリ 1 を転動させる間、ベビーカー 1 0 およびアクセサリ 2 0 は、雄要素 3 2 G および 3 2 D と雌収納部 1 8 G および 1 8 H の間の協働により軸 Y - Y を中心にして互いとの関係において枢動できる一方で、しっかりと連結された状態にとどまる。すなわち、この枢動は、特に、互いに対面するそれぞれの表面が相補的かつ同心的であるという事実に起因して、支持体 3 0 のシース 4 2 とフレーム 1 1 のクレードル 1 9 G および 1 9 D の間で干渉当接なく、自由である。有利にも、結果としてアクセサリ 2 0 は、ベビーカー 1 0 の後部に対し折畳まれるまで、地面から引き離されながら、軸 Y - Y を中心に上向きに枢動させることさえできる。すなわち、ストラップ固定などにより維持することのできるアクセサリのこの折畳み構成は、アクセサリは使用されないが、それでもユーザがアクセサリをベビーカーから連結解除したいと考えるときにのみ実施される。

10

【 0 0 4 4 】

ユーザは、ベビーカー 1 0 からアクセサリ 2 0 を解放したい場合、特に手の 2 本の指を隆起部 3 6 G および隆起部 3 6 D とそれぞれ協働させることにより、片手を用いて隆起部 3 6 G および 3 6 D に応力を加えるだけである。すなわちこの片手だけで、ユーザは次に、以上で説明した通り、装置 2 3 の左バネ 3 8 および右バネが対抗する弾性応力を克服しながら、図 5 に示された連結位置から図 6 に示された連結解除位置まで雄要素 3 2 G および 3 2 D を連動して駆動する目的で、機構 4 0 に応力を加える。ひとたびこれらの雄要素 3 2 G および 3 2 D がその連結解除位置になったならば、ユーザは、なおも機構 4 0 に応力を加える片手のみを用いてアクセサリ 2 0 を動かし、特に前記フレームの垂直材 1 6 G および 1 6 D の間から支持体 3 0 を取り出すことにより、ベビーカーのフレーム 1 1 との関係においてアクセサリ 2 0 を解放する。

20

【 0 0 4 5 】

ユーザがアクセサリ 2 0 を再びベビーカー 1 0 に連結したいと考える場合、ユーザは、有利にも同じ片手を用いてアクセサリ 2 0 を運び機構 4 0 に応力を加えることにより、直ぐ上で説明したものと逆の動作を行なう。ベビーカー 1 0 とアクセサリ 2 0 の間の相対的位置付け、特にユーザが手の応力を解除しようとしているとき、雄要素 3 2 G および 3 2 D が機構 4 0 によりその連結位置に自動的に復帰させられる直前の連結解除位置にあるこれらの雄要素との関係における雌収納部 1 8 G および 1 8 D の位置付けは、以上で説明された通り、フレーム 1 1 のクレードル 1 9 G および 1 9 D のそれぞれの上部表面によりさらに容易になる。

30

【 0 0 4 6 】

図 7 および 8 は、輸送アセンブリ 1 の一変形態様に対応する輸送アセンブリ 1 0 1 を示す。

【 0 0 4 7 】

輸送アセンブリ 1 0 1 は、先に説明したベビーカー 1 0 、ならびにアクセサリ 2 0 とは異なるベビーカーアクセサリ 1 2 0 を含む。

【 0 0 4 8 】

より具体的には、アクセサリ 1 2 0 は、アクセサリ 2 0 のシャーシ 2 1 に機能的に類似して地面 1 2 2 上を転動するための少なくとも 1 つの支承輪が具備されているシャーシ 1 2 1 を含む。その上、シャーシ 1 2 1 は、先に説明した装置 2 3 を担持し、前記装置 2 3 は、図 7 により例示されている通り、ベビーカー 1 0 のフレームに対するアクセサリ 1 2 0 の可逆的連結を可能にする。

40

【 0 0 4 9 】

アクセサリ 1 2 0 は、子供が上に立ちおよび / または座ることのできるプラットフォームを有するのではなく、シャーシ 1 2 1 は、ユーザがベビーカー 1 0 と一緒に搬送したいさまざまな物体および品物を保管することのできるトートバッグ 1 2 5 を担持しているという点で、そのシャーシ 1 2 1 との関係における整備によってアクセサリ 2 0 と異なっている。したがって、アクセサリ 1 2 0 は、カートに匹敵する。当然のことながら、トート

50

バッグ１２５の実施形態は限定的ではなく、図７および８で行なわれているその描写は、単なる例示にすぎない。

【００５０】

その実施形態の如何に関わらず、トートバッグ１２５は、輸送アセンブリ１０１がベビーカー１０単独の能力よりもはるかに大きい商品輸送能力を有することを可能にする。実際、ベビーカー１０は一般に、ここで考慮されているベビーカー１０について図７で１０．１という参照番号が付いている下部バスケットなどのバスケットまたはそれに類するもの組込んでおり、前記下部バスケット１０．１は、収容用部材１５の下方に設置されフレーム１１に引懸けられている。しかしながら、例えば下部バスケット１０．１などのこのようなバスケット輸送能力は、特にベビーカー内部のその設置に起因して制限されている。アクセサリ１２０のトートバッグ１２５により、商品輸送能力は実用的かつ効率良く増大し、同時に輸送アセンブリ１０１の快適性、美観および安全性は維持される。

10

【００５１】

１つの有利な実施形態の態様によると、前後方向でのシャーシ１２１の合計寸法は、押圧用部材１４を用いてベビーカー１０を押す大人の歩みをできるだけ妨げないために、短くなるように想定されており、車輪１２２は、シャーシ１２１の中央領域内に位置設定されながら、全方向性であると同時に１個だけのものとして想定されている。輸送アセンブリ１０１の操作性はこのとき、突き出したトートバッグ１２５内に置かれた負荷のほとんどを車輪１２２が支持できることから、卓越したものである。

【００５２】

20

別の有利な実施形態の態様によると、トートバッグ１２５の底面には、シャーシ１２１の方に向けられたその面上に、下向きに収束する突出した円錐台形要素が具備されており、一方、シャーシ１２１のプラットフォームには、トートバッグ１２５の方を向いたその面上に、上述の円錐台形要素と相補的かつ有利には車輪１２２の方向に垂直方向に突き出て配設されている円錐台形の収納部が具備されている。上述の要素と円錐台形の収納部の間の機械的協働によって、シャーシ１２１上のトートバッグ１２５の精確な設置および安定した維持が保証される。その上、この円錐台形の要素および収納部には、有利にも、瞬時可逆的な固定手段、例えば磁石および／またはクリップおよび／またはVELCRO（登録商標）タイプの面ファスナシステムなどが備わっている。すなわちこれらの瞬時可逆的な固定手段は、例えば輸送アセンブリ１０１が障害物を横断するか、不規則な地面上を転動するかまたは非常に曲線的な軌跡をたどる場合などに、シャーシ１２１からトートバッグ１２５から偶発的に分離するのを回避すると同時に、例えば十分に強くしかも垂直方向上向きなどの既定の方向に配向される応力をトートバッグに加えた場合にユーザがシャーシからトートバッグを分離させることができるように想定されている。当然のことながら、より一般的には、整備の間の協働によって前記トートバッグと前記シャーシの間の設置、維持および瞬時可逆的な固定に関して以上で説明した効果を得るために、トートバッグ１２５の底面およびシャーシ１２１のプラットフォームに対する他のそれぞれの整備を企図することが可能である。

30

【００５３】

１つの有利な任意の配設によると、例えばストラップ、フランジ、ループ、VELCRO（登録商標）タイプのファスナなどの取外し可能なリンクを、ベビーカー１０のフレーム１１とトートバッグ１２５の間に直接付加することができる。このリンクは、輸送アセンブリ１０１内部のトートバッグの安定性を強化しかつ／または、空であるかまたはさほど充填されていないトートバッグの形状を保って、トートバッグがその構成材料の可撓性に起因してつぶれるのを防ぐ。

40

【００５４】

アクセサリ２０は、ベビーカーの後部に向かって折畳まれるまで地面から引き離されながら、ベビーカー１０との関係において軸Ｙ－Ｙを中心にして上向きに枢動し得るという事実に関して以上で展開されたものと類似の考慮事項によると、アクセサリ１２０も同じくベビーカー１０のフレームと装置２３の間の協働によって、地面から引き離されながら

50

、ベビーカー 10 との関係において軸 Y - Y を中心にして上向きに枢動し得る、ということが指摘される。すなわち、このとき、アクセサリ 120 は、カート 21 の前後方向寸法が小さいことおよびトートバッグ 125 の構成材料に可撓性があることまたはトートバッグ 125 とシャーシ 121 を分離することによって、ベビーカーの下部バスケット 10 . 1 内に折畳み可能である。

【0055】

図 9 ~ 15 は、輸送アセンブリ 1 および輸送アセンブリ 101 の変形実施形態に対応する輸送アセンブリ 201 を示す。輸送アセンブリ 201 は、輸送アセンブリ 101 の一変形形態とみなすことができる。

【0056】

輸送アセンブリ 201 は、先に説明したベビーカー 10、ならびにアクセサリ 20 とは異なりかつアクセサリ 120 と同様にカートに匹敵するベビーカーアクセサリ 220 を含む。

【0057】

より具体的には、図 9 および 10 に示されているように、アクセサリ 220 は、機能的にアクセサリ 120 のシャーシ 121 と同様に、地面 222 を転動するための単一の全方向性の支承輪が具備されているシャーシ 221 を含む。さらに、シャーシ 221 は、先に説明した連結装置 23 を担持しており、この装置 23 は、図 9 および 11 ~ 15 に例示されている通りベビーカー 10 のフレーム 11 に対するアクセサリ 220 の可逆的連結を可能にする。さらに、アクセサリ 220 は、シャーシ 221 で支持させることにより、ユーザがベビーカー 10 と一緒に搬送することを望むさまざまな物体および品物を保管することを可能にするトートバッグ 225 を含む。トートバッグ 125 について先に説明したように、トートバッグ 225 は、快適性、美観および安全性を維持しながら、ベビーカー 10 単独の場合と比べ輸送アセンブリ 201 の商品輸送能力を実用的かつ効率的に増大させる。

【0058】

アクセサリ 220 のシャーシ 221 およびトートバッグ 225 は、可逆的かつ瞬時に互いにしっかり固定されるように設計されている。そのために、トートバッグ 225 の底面 225 . 1 には、特にシャーシ 221 がトートバッグを担持している場合にシャーシ 221 に面するその面上に、図 10 に明確に示されているように固定用部材 226 が備わっており、一方、シャーシ 221 のプラットフォーム 224 には、特にシャーシがトートバッグを担持している場合にトートバッグに面しているその面上に、図 9 に明確に示されているように固定用部材 227 が備わっている。すなわち、部材 226 および 227 は、前記部材 226 および 227 の協働により、輸送アセンブリ 201 の移動中にシャーシ 221 からトートバッグ 226 が偶発的に分離することが妨げられ、しかもそれとは別個に、例えば充分強い応力が垂直方向上方などの既定の方向に配向されてトートバッグに加えられた場合に限りユーザがシャーシからトートバッグを分離することができるという点において可逆的に、そしてそれと同時に部材 226 および 227 は、部材 227 に接して部材 226 を置くことからなる操作、特に部材 227 上に部材 226 を重力の作用下で置くことからなる操作以外の追加の操作によってこれらの部材の協働を活動化させる必要なく、互いに接触させられた場合に互いに協働するという点において瞬時に、シャーシ 221 にトートバッグ 225 を固定することを可能にする。実際には、部材 226 および 227 は、磁石および / または自動クリップおよび / または V E L C R O (登録商標) タイプの面ファスナシステムなどである。

【0059】

以上の考慮事項の延長線上で、トートバッグ 225 のベースは有利には、円形になるように想定されており、ベビーカー 10 の垂直材 16 G および 16 D の間にトートバッグ 225 の前部部分を挟み込むように寸法決定されている。このようにして、シャーシ 221 上に設置される場合のトートバッグの位置付けがユーザにとってより容易なものとなり、ユーザは、「急いで」トートバッグを置いた場合に自己調心によりバッグを案内するため

10

20

30

40

50

にベビーカーのフレームの垂直材を使用することができる。

【 0 0 6 0 】

シャーシ 1 2 1 について以上で展開した類似の考慮事項によると、シャーシ 2 2 1 は、短かい合計前後寸法を有する。したがって、シャーシ 2 2 1 は、図 9 および 1 2 ~ 1 5 に示されるように、ベビーカーのフレーム 1 1 に連結されたアクセサリ 2 2 0 がベビーカーの後ろの地面の上を転動する場合、ベビーカー 1 0 を押す大人の邪魔になることがない。その上、装置 2 3 がシャーシ 2 2 1 とベビーカー 1 0 の間の連結を維持する間、軸 Y - Y を中心にしたアクセサリ 2 2 0 の上向きの枢動を用いて、シャーシ 2 2 1、特にトートバッグ 2 2 5 無しのシャーシ 2 2 1 を、図 1 1 に例示されているように、ベビーカー 1 0 の下部バスケット 1 0 . 1 の内部に折畳むことができる。

10

【 0 0 6 1 】

1 つの有利な実施形態様によると、プラットフォーム 2 2 4 は、図 9 および 1 0 に明確に示されているように、シャーシ 2 2 1 の前後方向に延在する細長い形状を有する。この細長い形状を有するプラットフォーム 2 2 4 は、以下のものを含む：

- 連結装置 2 3 が配設される前端部 2 2 4 . 1。前記装置 2 3 により画定される並進運動軸 Y - Y は、特にプラットフォーム 2 2 4 の長手方向に直交して延在する；

- 全方向車輪 2 2 2 がそれを中心として自由に枢動して配向を変えることのできる、プラットフォーム 2 2 4 に対して横断方向に延在する、車輪 2 2 2、より具体的には枢動軸が配設される後端部 2 2 4 . 2；および

- 前端部 2 2 4 . 1 と後端部 2 2 4 . 2 を互いに連結し、固定用部材 2 2 7 を担持する、主部 2 2 4 . 3。

20

【 0 0 6 2 】

プラットフォーム 2 2 4 の細長い形態には多くの実用的利点がある。実際、これにより、シャーシ 2 2 1 とベビーカー 1 0 を押す大人の足との間で、この大人の歩行中に干渉が発生するリスクは実質的に制限される。さらに、車輪 2 2 1 は、ベビーカー 1 0 の後輪列 1 3 との干渉なく、その枢動軸を中心として 3 6 0 ° にわたり枢動することができる。さらに、トートバッグ 2 2 5 が生み出す荷重は、連結装置 2 3 を介して、ベビーカーのフレーム 1 1 の垂直材 1 6 G および 1 6 D と車輪 2 2 2 の間で効率的に分配させられ、したがってこうして安定化される。その上、子供は、狭いプラットフォーム 2 2 4 上では容易に立てないことから、トートバッグ 2 2 5 が存在しないシャーシ 2 2 1 上によじ登る気がしなくなる。

30

【 0 0 6 3 】

極めて有利な任意の配設によると、トートバッグ 2 2 5 は、可撓性として想定されしたがって変形して調整可能な容積の保管用袋を形成できる主本体 2 2 5 . 2 に加えて、ベビーカー 1 0 のフレーム 1 1 およびトートバッグ 2 2 5 の主本体 2 2 5 . 2 を直接かつ取外し可能な形で連結することを可能にする配設を含んでいる。図中で考慮されている例示の実施形態において、これらの整備は、図 9 に明確に示されているように、それぞれ左右のストラップ 2 2 5 . 3 を含み、これらのストラップは、それぞれ主本体 2 2 5 . 2 の左側面および右側面上に延在し、有利にもトートバッグの運搬用取っ手を形成するその頂点において、図 1 2 ~ 1 5 に示されているようにベビーカー 1 0 のフレーム 1 1 のそれぞれ左右の部分に連結されるそれぞれ左右のフック 2 2 5 . 4 とそれぞれに協働する。実際には、左右のフック 2 2 5 . 4 は、フレーム 1 1 から引っ掛けによって取外し可能でありながらストラップ 2 2 5 . 3 によって恒久的に担持されているか、または、引っ掛けによってストラップ 2 2 5 . 3 から取外し可能でありながら、例えばクリップ留めによってフレーム 1 1 により恒久的に担持されるか、またはフレーム 1 1 およびストラップ 2 2 5 . 3 の両方から取外し可能である。当然のことながら、これらの整備については、図中以外の実施形態を企図することもできる。あらゆる場合において、このような整備の利点は数多くあり、注目に値する。実際、トートバッグ 2 2 5 の主本体とベビーカー 1 0 のフレーム 1 1 との間におけるこれらの整備により保証される直接的かつ取外し可能なリンクは、図はおよび 1 3 に示されているように、トートバッグが空であるかまたはさほど詰め込まれて

40

50

いない場合にトートバッグの形状を保って、トートバッグがその主本体 225 . 2 の可撓性に起因してつぶれることを防いでいる。トートバッグ 225 のこのような形状維持は、図 14 に例示されているように、シャーシ 221 の上方で後部に向かって突き出ている收容用部材 15 としてのシート 11 の下方に主本体 225 . 2 が配設される場合に、特に有利である。上述の整備により提供される連結は同様に、図 15 に例示されているように階段などの障害物を輸送アセンブリ 201 が横断する場合に特に、輸送アセンブリ 201 内部のトートバッグ 225 の安定性を実質的に強化する。換言すると、図中で考慮されている例中のストラップ 225 . 3 およびフック 225 . 4 などの前述の整備は、図 15 に示されるように、ベビーカー 10 との関係における担持レベルの差に起因して車輪 222 がもはや地面を圧迫しなくなった場合に、アクセサリ 220 がベビーカー 10 との関係において軸 Y-Y を中心として下向きに枢動するのを制限しながら、部材 226 および 227 により保証されるトートバッグ 225 とシャーシ 221 間の固定を強化する。この最後の態様に関して、図 9 で考慮されているように、車輪 222 が地面の段差よりも上方にある場合のアクセサリ 220 の下向き枢動の保持は、取外し可能なリンクに加えてまたはこのリンクの代わりに、直接トートバッグ 225 とベビーカーのフレーム 11 の間で、ベビーカーのフレーム 11 にしっかり固定され後部部分 11 . 1 G および 11 . 1 D の間に配設され、特に垂直材 16 G および 16 D を互いに連結するストッパ 11 . 1 C に対するシャーシ 221 のプラットフォーム 224 の直接的な下向きの支承によって保証され得る、ということが指摘される。

【 0064 】

輸送アセンブリ 101 および 201 は、ベビーカー 10 のフレーム 11 に対して可逆的に連結されることのできるアクセサリ 20、120 および 220 などのアクセサリがとり得る多数の実施形態を例示しており、ここでこの連結は、このアクセサリがひとたびベビーカーに連結された時点で、ベビーカーを押した場合にアクセサリが牽引されるようにする装置 23 によって行なわれる。

【 図 1 】

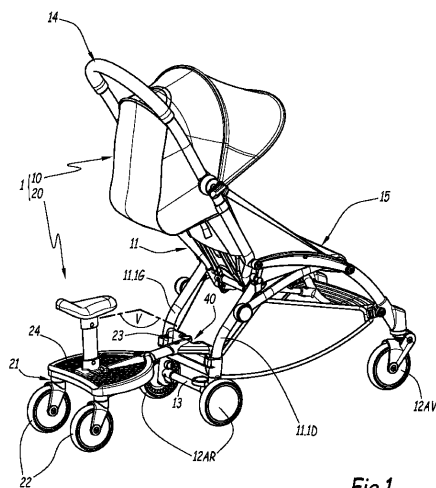


Fig.1

【 図 2 】

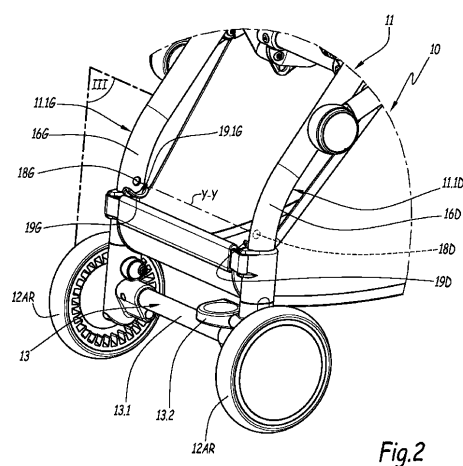


Fig.2

【図 3】

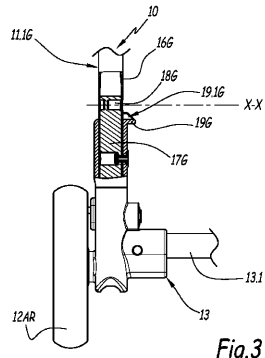


Fig.3

【図 5】

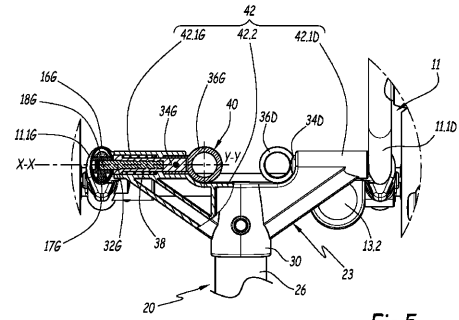


Fig.5

【図 4】

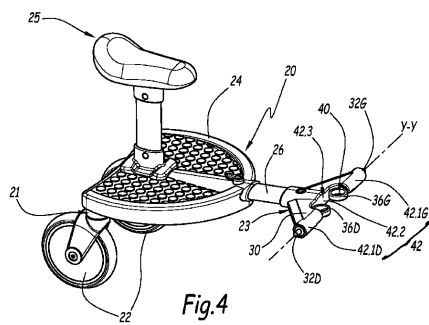


Fig.4

【図 6】

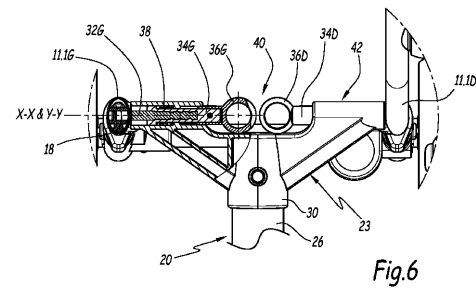


Fig.6

【図 7】

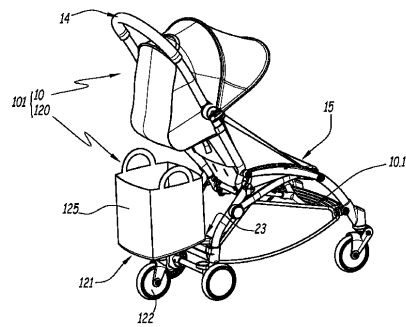


Fig.7

【図 9】

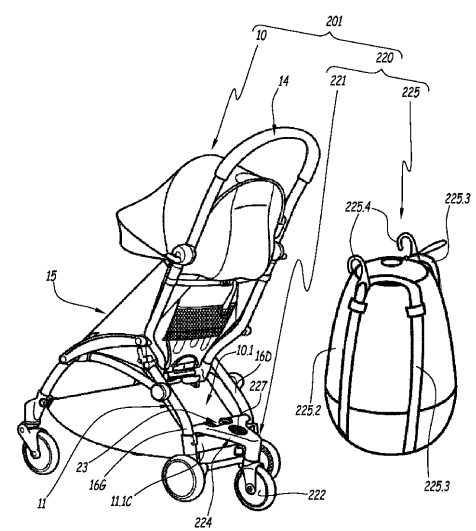


Fig.9

【図 8】

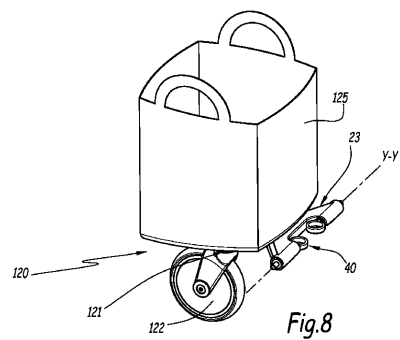
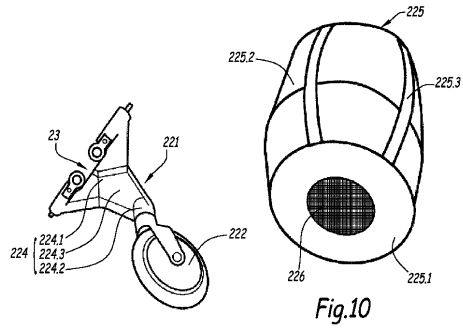
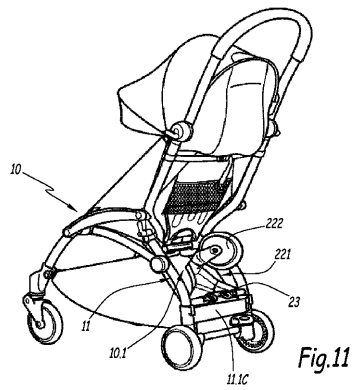


Fig.8

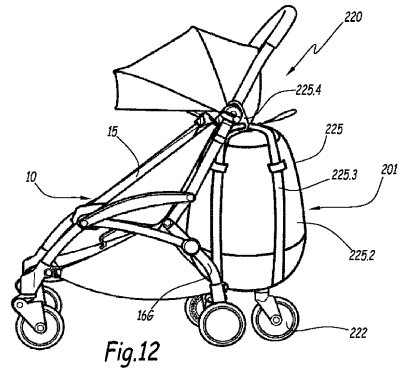
【図10】



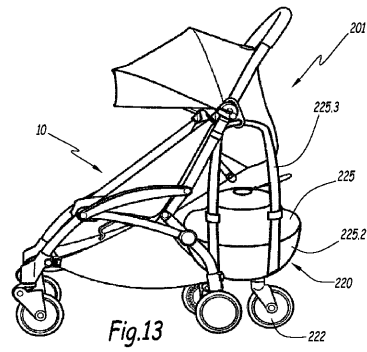
【図11】



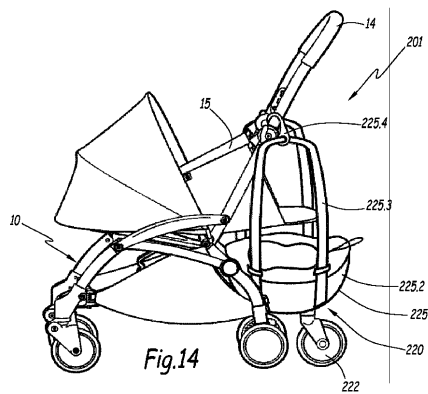
【図12】



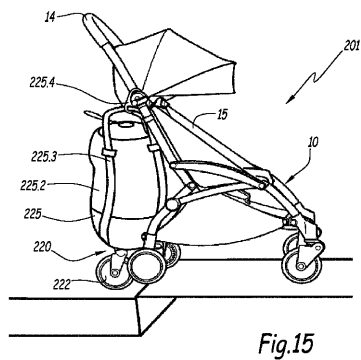
【図13】



【図14】



【図15】



フロントページの続き

(72)発明者 ジャン ミシェル ショードウルジュ

フランス国, 8 3 1 7 0 トウルブ, ドメンヌ ドゥ ミュスカポー ルート ドゥ ブラ

審査官 米澤 篤

(56)参考文献 特開平 1 1 - 1 8 0 3 1 1 (J P , A)

特開 2 0 0 6 - 1 3 7 3 5 8 (J P , A)

特開 2 0 0 5 - 2 2 5 4 7 4 (J P , A)

米国特許出願公開第 2 0 0 7 / 0 1 1 4 7 3 8 (U S , A 1)

米国特許第 7 0 3 6 6 9 9 (U S , B 1)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

B 6 2 B 9 / 1 2

B 6 2 B 9 / 2 6

B 6 2 B 9 / 2 8